

点数	評価	
3.5以上～4	よくあてはまる	◎
2.5以上～3.5未満	ある程度あてはまる	○
1.5以上～2.5未満	あまりあてはまらない	△
1.5未満	あてはまらない	×

カテゴリー	点数 ():前年度	評価	内 容
I. 学校運営	3.4 (3.0)	○	少子化の影響もあり、入学試験受験者数は低下傾向が続いており、入学者の充足が難しい現状である。この点においては、市内高校とも情報交換したり、広報活動を幅広く行うなど定数確保出来るようにすることが課題である。入学後の学生へは学習面だけではなく、生活面においても個別の指導や対応を行っていることは、国家試験合格率100%および就職率90%以上に繋がり、これは専門職業人を育てる専門学校として機能できていると考える。
II. 教育活動	3.0 (3.1)	○	本年度入学生から第5次カリキュラム改正が始まり授業計画に則り実施したが、科目評価に留まり、カリキュラム運営上の評価を行い教員間で共有していくことが課題である。また、コロナ禍の実習が続き、学生の学習を保障するため、実習施設と相談したり、学内実習の場を確保したりしながら進めた。臨地実習が回復しつつある中で、実習指導者との協力体制も課題である。そして、教員の資質能力の向上のために相互研鑽できるような取り組み(研究活動や研修会)や、それに必要な環境づくり(人員配置・業務調整)を行い学生教育へ繋げていきたい。
III. 入学、養成所の情報提供	3.0 (2.9)	○	オープンキャンパスや高校生対象の進路ガイダンスなど例年の取り組みに加え、学生参加型で小学生セミナーを主催した。オンライン開催ではあったが、参加者からの高評価に本校の学生達も達成感を得ることができた。さらに、地域との繋がりが持てるような取り組みも考えていき、入学者確保に繋げていきたい。
IV. 学生支援	3.1 (3.2)	○	学習環境においては、オンライン学習の整備が整った。国家試験対策においてもオンライン学習は感染予防対策が図れ、直前まで小集団指導もでき、全員合格へと繋がった。今年度も学校カウンセラーによる学年別ストレス対処法の講話を行った。緊急を要する事案に関しても学校カウンセラーと連携を図り精神的サポートへ繋がった。個々の学生に対して経済的支援を含め、継続した学習ができるようなサポート体制を整えていく。
V. 就職、進学	3.5 (3.0)	◎	毎年進路のデータを取り、就職先や進学する学校の情報と併せて進路指導に活用している。進路決定のために、1・2年次に就職説明会を開催し、3年次に就職受験に向けた模擬面接や筆記試験対策を行った。大部分の卒業生が希望する就職・進学ができた。ただし、保健師・助産師への進学先が近隣県に少ない状況は目立ってきている。
VI. 卒業生の把握	2.8 (2.8)	○	実習や会議等の機会に就職した卒業生の状況を聞き把握するよう努めた。特にコロナ禍での卒業生においては制限された学校生活が、コミュニケーションや考える力に影響していると思われる。そのため、看護師国家試験後の演習会や就職後の交流会などを行い卒業支援していく。また、本校の卒業生がどのようにキャリアアップ(特定・専門・認定看護師など)しているかを把握し、学校内外に紹介することで、在学生の士気向上や学校の魅力発信に繋げたい。
VII. 地域社会への貢献	3.1 (2.8)	○	本年度入学生から第5次カリキュラム改正が始まり、地域・在宅看護論の授業活動において、学生と地域の方々との接点が増えた。また、学生と教員で生活支援サポーター養成講座を受講し、互助活動への取り組みを始めている。卒業生の約8割が市内に就職したことは、地域医療への貢献の一つと言える。
VIII. ボランティア活動	2.6 (2.7)	○	新型コロナウイルス感染症の感染防止のために活動を制限していたが、5類へ移行後は医療・福祉施設での活動を再開・推進していく。
IX. 学生満足度	3.1 (3.3)	○	要望的意見として、「教科書が多く重い。」「課題が多い。」と挙げられており、この点に関しては電子テキストの検討やカリキュラムの進度及び各科目の課題が見えるようにするなど改善できることから始めていく。